

第34回北九州市環境審議会

1. 日 時 平成25年5月27日（月）15:00～17:00
2. 会 場 リーガロイヤルホテル小倉 4階 ダイアモンド
3. 出席者（敬称略）
 - 会 長 浅野直人
 - 副 会 長 大久保 無我
 - 委 員 泉優佳理、自見榮祐、土井智子、西道弘、西本祥子、福丸清生、細川文枝、松井克演、松永和紀、村上直樹、吉塚和治（50音順）
 - 事 務 局 松岡環境局長、諫山循環社会推進担当理事、吉田環境政策部長、加茂野環境未来都市推進室長、柴田環境都市調整担当部長、内藤環境国際担当部長、石田アジア低炭素化センター担当部長、青柳監視部長、佐藤循環社会推進部長、山下環境科学研究所長、武田総務課長、渡部環境広報担当課長、東田環境学習課長、作花環境保全課長、井上産業廃棄物対策室長、二宮監視指導課長、敷田循環社会推進課長、檜木野業務課長、安部施設課長、梶原環境未来都市次長、柴田スマートコミュニティ担当課長、平石エネルギー戦略担当課長、山本環境産業担当課長、久保環境国際戦略課長、吉村アジア低炭素化センター担当課長、寺師環境科学研究所次長

4. 議 題

【報告事項】

- ①環境モデル都市行動計画のフォローアップについて
- ②北九州市地域エネルギー政策について
- ③微小粒子状物質（PM2.5）の常時監視について
- ④洞海湾付着動物調査結果について
- ⑤（仮称）北九州エコマンスについて
- ⑥第25回星空の街、あおぞらの街全国大会の開催について

5. 議事要旨

（1）新規就任委員の紹介及び会長代理の選任

北九州市議会議員改選に伴って、第10期環境審議会委員に就任いただいた方々の紹介後、北九州市環境審議会規則に則り、委員の互選により、会長代理に大久保委員が選出され、就任の挨拶があった。

（2）会長挨拶及び環境に関する動向

浅野会長より挨拶及び最近の国の環境施策状況について話があった。

（3）報告事項

①環境モデル都市行動計画のフォローアップについて、②北九州市地域エネルギー政策について、③微小粒子状物質（PM2.5）の常時監視について、④洞海湾付着動物調査結果について、⑤（仮称）北九州エコマンスについて、⑥第25回星空の街、あおぞらの街全国大会の開催について、事務局より報告があった後、質疑応答が行われた。

6. 議事録（要旨）

（1）環境局長挨拶

この度、環境局長に就任しました松岡でございます。第34回環境審議会の開催にあたり一言ご挨拶させていただきます。

委員の皆様には日頃より本市の環境行政にご協力いただき、また、本日はお忙しい中、審議会にご出席いただきましてお礼を申し上げます。今回、新たに環境審議会委員へ就任

いただきました5名の皆様には、就任をご快諾いただき感謝申し上げます。

初めに、宮城県石巻市の災害廃棄物の受け入れにつきまして、昨年9月から今年3月まで、約2万2,600トンの災害廃棄物を本市において安全・確実に処理し、被災地の復旧復興に貢献することができました。これもひとえに市民の皆様方及び関係者の皆様方のご理解、ご協力の賜物と深く感謝しております。とりわけ、環境審議会からは浅野会長を始め、多くの委員の皆様方に、専門家、あるいは市民代表として検討会にご参加いただき、貴重なご意見いただきました。重ねてお礼を申し上げます。今年4月9日には、宮城県知事と石巻市長が本市を訪問され、感謝の言葉をいただいたところです。災害廃棄物の受け入れはこれで終了いたしました。今後、被災地の復興支援に真剣に取り組む所存でございます。引き続きご協力をお願い致します。

さて、今年2月に当審議会での審議を終え、環境基本計画を策定することができました。そこに掲げる4つの柱、『市民環境力の発揮』、『低炭素社会づくり』、『循環型社会づくり』、『自然共生社会づくり』に基づきまして、今後も世界の環境首都を目指した様々な取り組みを進める所存です。

また、現在、PM2.5（微小粒子状物質）が大きな注目を集めておりますが、今月5日、6日に日中韓の環境大臣会合が本市で開催されたところです。今回の会合で注目を浴びた二つのポイントを申し上げますと、日本と中国、韓国との間で緊張が高まる中、このような会議が本市で開催されたということ、これが一点目です。二点目は、その共同声明に実務者レベルの政策対話を新設することが盛り込まれたことです。本市で開催されたこの会議は大きな意義があったものと思っております。今後、このような政府間の話し合いが進むこととなりますと、大連市の大気改善を始めとした環境国際協力の経験、環境技術の輸出を進めているアジア低炭素化センターのノウハウなどを最大限に活かして、これらの問題解決に貢献していく考えであります。

また、本市は市制50周年を迎えたわけですが、今年10月には国際会議、環境イベント等が集中的に開催される予定となっております。これらをトータルに発信していきたいと考えております。

本日は、都合6件の報告を予定しております。委員の皆様方から忌憚のないご意見をいただき、より良い環境行政を進めていきたいと考えております。本日は宜しくお願い致します。

（報告事項）

【会長】

それでは、事務局から説明をいただきながら議論していきたいと思っております。環境モデル都市行動計画のフォローアップと北九州市地域エネルギー政策の二つについて説明をお願いします。

環境モデル都市行動計画のフォローアップについて、梶原環境未来都市推進室次長より説明

北九州市地域エネルギー政策について、平石エネルギー戦略担当課長より説明

【会長】

それでは、報告につきまして、ご質問やご意見がございましたらお願いします。どなたからでも結構です。いかがでございますか？

【委員】

若松区に大規模な太陽光発電や風力発電を整備するとの説明があったが、響灘には既にビオトープがある。ビオトープとそういったものが共生できるのか、何か矛盾を感じる。今後、ビオトープを強化していきたいのか。周りにそういったものができればビオトープが縮んでいくのではないかと懸念があるが、その点はどうか。

【事務局】

ビオトープの場所は廃棄物処分場跡地であり、工場の中にも憩いの場が必要だろうということから、港湾計画において緑地に位置づけられたものです。その上で、エコタウンなどの資源

循環と自然エネルギーなどの低炭素、そして自然共生という3つの要素を連携させたアジアのグリーンショールームとして整備・情報発信することを考えてきたところです。

【委員】

環境モデル都市のフォローアップ結果の中で、「A：取組の進捗」と「B：温室効果ガス削減・吸収量」の評価が4となっている。資料次ページの2011年度の北九州市の温室効果ガス排出量を含んだ評価だと思うが、どのように考えているのか。また、本市の排出量を細かく見ると、業務部門の伸びが大きくなっているが、この点をどのように評価しているのか。

【事務局】

今回の環境モデル都市の評価と本市の排出量は別のものです。環境モデル都市の評価は、関連する約70事業においてどのような成果をもたらしたかということであり、先程の説明のように、鉄鋼業の生産プロセス改善や東南アジアでの生ごみ堆肥化事業などによって、年間約8万トンの削減につながっています。この点は他の都市に比べ非常に高い数値であり、5とまではいかないまでも、4と評価したものです。

一方で、本市においても原発の停止や生産拠点の移転、大規模事業者の進出などにより、温室効果ガス排出量が増えています。今年度に、新たな環境モデル都市行動計画を策定する予定としており、その中で事業対策に組んでいくことなると思います。

【事務局】

少し補足します。温室効果ガスについては実際に関東あるいは東北からかなりの事業者が本市に移ってきています。その点についても国に報告したところ、やむを得ないだろうということで評価が4となったものです。

【委員】

燃料電池車を使って住宅に電力供給することにより平滑化するという事は、深夜に使うということなのでしょう。それとも、東田に水素ステーションがあって、一つのデバイスとして燃料電池車を使うということでしょうか。例えば、家庭用の燃料電池に置き換えてスマートシティ化していくというアイデアで進められるのか、その点をお聞きしたい。

【事務局】

4月9日から本市とホンダで協力し、クラリティという燃料電池車をエコハウスに繋げて実証実験を開始しています。狙いとしては、昼間のピークカットということがひとつ。そして、自動車移動が可能であり、災害発生場所に持って行き、そこで給電する可能性もあることから実験を行っています。

【委員】

響灘スマートインダストリー構想の中で洋上風力発電についての説明がありましたが、この進捗状況をお聞きしたい。

【事務局】

2メガワットの洋上風力が設置されており、6月に稼働予定になっています。

【会長】

洋上といっても、要するに足が海の中にあるというものです。

【事務局】

そうです。

【委員】

場所は何処になりますか。

【事務局】

若松区の電源開発の1.4キロ沖です。

【会長】

今のところ、洋上風力で発電した電力をどうやって運ぶかという問題が大きいので、あまり沖合には行けないわけです。五島はかなり沖合にありますが。最終的には電気の運び方の問題がひとつの要因ではないかと思います。

【委員】

わかりました。先日、丸紅が日本で洋上風力発電事業に乗り出すという発表があったと思いますが、それとは関係ないのですか。

【事務局】

先程の部分を少し補足します。本当に洋上で風が強いのか分かっていないこともあり、洋上風力発電と一緒に風況調査をNEDOとJ-POWERで2年間かけて行うようになっており、調査結果を見てからの方がリスク少ないのではないかと思います。さらに、洋上風力についてはFITにおいてもまだ単価が決まっておりませんので、そういうことも相まって現実的になっていくと思います。

【会長】

それと、洋上に関しては、アセスをやろうと思っても知見が十分に揃っていないですね。その辺もこれからネックになりそうなので、北九州で行うのであれば、鳥の情報とか調べてみてください。そういうデータがあると物凄く助かります。

【委員】

わかりました。是非進めていただければと思います。

【委員】

北九州市の地球の道を見学に行ったことがあります。倉本聡さんの富良野自然塾から導入されたと言うことでしたが、あまり面白いと感じなかった。もう少し北九州方式で工夫して、ひと手間加えたら、もっと楽しいものになるのではないかと思います。

【会長】

これは、ライセンスの関係もありますが、そういう声があるというのも事実ですので、ライセンスの期間が切れたら、知的財産権の侵害にならない程度に自前で考えて行ってください。

それでは、次に、PM2.5の常時監視について、洞海湾の付着動物調査結果について事務局から説明をお願いします。

微小粒子状物質（PM2.5）の常時監視について、作花環境保全課長より説明

洞海湾の付着動物調査の結果について、寺師環境科学研究所次長より説明

【会長】

それでは、ただ今の報告についてご質問やご意見はございますか。

(意見、質問なし)

特にございませんでしたら、最後に2つの報告をお願いします。

(仮称)北九州エコマンスについてについて、渡部環境広報担当課長より説明

第25回星空の街、あおぞらの街全国大会の開催渡部環境広報担当課長より説明

【会長】

はい、どうもありがとうございました。何かご意見、ご質問はございますか。
(意見、質問なし)
それでは、恒例どおり最後に会長代理から感想をお願いします。

【会長代理】

初めて審議会に参加させて頂きました。皆様から活発なご意見をいただき本当に良かったと思います。こうした会議を通じて、行政の方々が市民の意見を吸収され、そして、施策に反映させていっていただければと改めて思いました。

【会長】

それでは本日の議題は以上です。この後、事務局から事務連絡がありましたらお願い致します。

【事務局】

本日はお忙しい中、ご出席を頂きまして有難うございました。本日いただきましたご意見を今後の北九州市の環境施策の推進にきちんと反映をさせていきたいと思っております。

次回の環境審議会につきましては、10月以降の開催と考えております。詳細な日程等につきましては、事務局から改めてご案内をさせていただきたいと思っております。以上を持ちまして第34回北九州市環境審議会を終了致します。どうも皆様お疲れ様でございました。